はじめに

高1・高2・高3　漢文

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、でも、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。

そんな人でも大丈夫！

本講座は漢文の基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人でも大歓迎！です。

この講座を受講すれば、最後には入試漢文の問題が自力で解けるようになっているはず。たった11講なのに、です。

なぜなら**漢文は、入試科目の中でおそらく一番少ない知識で高得点が取れる科目**だからです。ただし、古文法の知識がないと少しやっかい（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したからです）なので、まずは古文法を仕上げてくださいネ（入試科目で、「古文はいるけど漢文は不要」という人はいるでしょうが、その逆はほとんどの人が該当しないはずです。だから「古文そのもの」の為にはもちろんのこと、「漢文」の為にも古文法の知識は必要ですので、まずは古文文法講座の講義動画を参考にして古文法をマスターしてください）。

漢文は確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。

あるいは、「漢文は使役や反語などの句法が大事」だという言葉は、なんとなく聞いたことがある人も少なくないはずです。だから「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？

でも「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」という悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実…。

――なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。もちろん句法も大事です。でも、それだけじゃないんです！

一番基本となるところ、「**文構造**」や「**『置き字』の知っておくべき知識**」をきちんと理解できていないと、漢文は正しく読めません。逆に言うと、これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。

本講座では、第1講で、まずそれらの基本知識をきっちり学んだ上で、第2講～第7講で入試に必要な「重要句法」に取り組みます。ほぼ全ての例文は、入試問題の文章から抜粋したものです。基本を学びつつ、例文で入試問題の文章にも触れて、実践問題を取り組む準備も自然としていることになります！

第7講には、覚えておくべき単語も掲載していますので、何度も見て覚えてくださいネ。少ないとは言え、やはり最低限覚えるべきことはあるので、テキストに載っていることはおさえてください（もちろんコツは講義中にお伝えします）。第8講で漢詩を扱った後は、実際の過去問にチャレンジです。

基本からしっかり理解して、実践練習で問題が解けるように、全11講一緒に頑張りましょう！

予復習・授業の受け方について

高１・高２・高３　漢文

第1～8講までは予習不要です。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。なお解答欄はありませんので、選択式の問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。

ちなみに、**〈例題〉は基本オリジナル問題**（若干古い入試問題も入っています）、**「問題」は実際の入試問題**です。

「既に句法が理解できている人」は、第２～７講の句法の部分は、ざっと確認程度で気楽に取り組んでください。**間違えた箇所、忘れていた部分、知らなかったことなどに重点を置いて**取り組んでください。

「全く句法が理解できていない人」は、一気に仕上げようとしなくてもよいので、**確実に覚えてから次に進んでください**。ただし、間が空きすぎると忘れてしまうので、なるべく期間を決めて（句法を一～二カ月以内に全部覚える、など）、その間に仕上げてくださいネ。

第9～11講は「実践練習」なので、**動画を見る前に先に問題を解いてください**（つまり、予習してネ）。大問で二、三題ありますので、全部解いてから動画をまとめて見るもよし、各大問ずつ解いて該当チャプターを分けて見るもよし、自分に合うスタイルで実施してください。どちらにしろ、予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ることは守ってください。自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることが大切です。

講義を見終えたら、どの講も復習は必ずしてください。特に、第１講が理解できていなければ、その先も全く分からないはずなので、きちんと理解してから次に進みましょう。句法は言うまでもなく大切ですので、動画を見て理解ができれば何度もテキストを見直して、定着させてください。復習が終わったら、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。この「確認問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してください！

目次

高１・高２・高３　漢文

第1講　基本事項の確認……p.6
第2講　再読文字・使役形……p.30
第3講　受身形・否定形……p.46
第4講　疑問形・反語形……p.68
第5講　詠嘆形・比較形・仮定形・限定形・累加形……p.86
第6講　抑揚形・願望形……p.104
第7講　その他の句法／漢字の読み・意味／漢詩……p.112
第8講　漢文読解法……p.136
第9講　実践練習⑴……p.148
第10講　実践練習⑵……p.158
第11講　実践練習⑶……p.170

第1講　基本事項の確認
PART1　基礎知識

一　基礎知識

●**白文**…漢字だけの文

有献不死之薬於荊王者。

●**送り仮名**…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

有リ献ズル不死之薬ヲ於荊（けい）王ニ者。

●**返り点**…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有㆘献㆓不死之薬於荊王㆒者㆖。

●**書き下し文**…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

i 「書き下し文」

＊ 平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（ii参照）に従って順番に読む。

② **置き字**（三参照）は**書かない**。

③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。

④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。

⑤ **再読文字**（第二講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有リ下献ズル二不死**之**薬ヲ於荊（けい）王ニ一者上。

↓

不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

ii「返り点」

（＊　iiの例文中もiの例文同様、**助詞・助動詞**の漢字は**太字**、置き字には影をつけています）

① レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②レ①

（例）酤レ酒。〔酒を酤る。〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例）我与レ汝結二今身縁一。〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

③ 上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）僕時雖下稍知二愛敬一、**不**中従レ衆非笑上、…〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せ**ざ**ると雖も、…〕

④ 甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

＊ 上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

例 ⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤ 組み合わせ点＝レ、上レ、甲レのみ。　＊ 一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

（例）明ニスル二人**之**欺クヲレ王ヲ**也**。〔人**の**王を欺くを明にする**なり**。〕

⑥ 二字の熟語へ返る＝―（ハイフン）でつなげる。

③二-④①②一　／　⑤三③二-④①②一

（例）往二-来ス於市し井せいノ間ニ一。〔市井の間に往来す。〕

〈例題一〉次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書きなさい。

○乙○下○二○○レ○○中○○上○甲。

〈例題二〉次の数字の順番に読めるように返り点をつけよ。

⑦⑥①②⑤③④

問一 次の文は「臣敢て死を以て戯れと為さず。」と読む。これに従って返り点をつけよ。

臣不敢以死為戯。

問二 次の文は「遂に以て詩を得たる人に嫁せしむ。」と読む。この読み方に従って、返り点をつけよ。

遂以嫁得詩人。

問三 次の文は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲す。」と読む。これに従って、漢文に返り点をつけよ。

欲服勤致力、以報厚徳。

問四　次の文を「寛簡、擾（みだ）さざるを以て意と為す。」と読めるように返り点と送り仮名とを施しなさい。

以 寛 簡 不 擾 為 意 。

注　寛簡…寛大で簡便なこと。

〈例題三〉　「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

①　戸外より榻を移して寝ねたり
②　榻を戸外に移して寝ねたり
③　戸外に寝ねて榻を移したり
④　榻を移して戸外に於いて寝ねたり
⑤　榻は戸外にて移して寝ねたり

第1講　PART1　確認問題

①　書き下し文にするときのルールとして正しくないものを、次の中から一つ選べ。

ア　返り点に従って読む。
イ　置き字は書かない。
ウ　助詞・助動詞として読む漢字は平仮名で書く。
エ　漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。
オ　再読文字は最初の読みは平仮名で、二度目の読みは漢字で書く。

②　「与(と)二朋友一交ハリテ而不(ざ)ルレ信ナラ乎(か)。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「而」は置き字である。）

ア　朋友与交はりて而信ならざるか。
イ　朋友と交はりて信ならざるか。
ウ　朋友と交わりて信ならざるか。
エ　朋友と交はりて信なら不るか。

③　〇の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「〇乙〇下|〇〇〇中〇〇二〇〇一〇上〇甲。」

ア　⑪乙⑨下|①②⑧中③⑥二④⑤一⑦上⑩甲。

イ　⑪乙⑧下|⑨①⑦中②⑤二③④一⑥上⑩甲。

ウ　⑪乙⑦下|⑧①⑥中②⑩二③⑨一④上⑤甲。

エ　⑧乙⑤下|⑥⑨④中⑩②二⑪①一③上⑦甲。

④　数字の順番に読めるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「⑦⑥④③①②⑤⑧。」

ア　⑦三⑥レ④二③レ①②⑤一⑧。

イ　⑦下⑥中④③二①②一⑤上⑧。

ウ　⑦乙⑥レ④下③二①②一⑤上⑧甲。

エ　⑦レ⑥下④レ③二①②一⑤上⑧。

⑤　左の文は、「君子は言に訥（とつ）にして、行に敏（びん）ならんことを欲す。」と読む。この読み方に従って返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「於」「而」は置き字である。）

「君子欲訥於言、而敏於行。」

ア　君子欲㆓訥㆑於㆑言、而敏於㆑行㆒。

イ　君子欲㆘訥於㆑言、而敏㆖於㆑行。

ウ　君子欲㆘訥㆓於言㆒、而敏㆗於行㆖。

エ　君子欲㆔訥於㆑言、而敏㆓於行㆒。

〈Memo〉

解答

第1講　PART1　解答

〔例題一〕　⑩乙⑧下④二①③レ②⑦中⑤⑥上⑨甲。

〔例題二〕　⑦レ⑥三①②⑤二③④一

〔例題三〕　②

問一　臣不二敢以一レ死為レ戯。

問二　遂以嫁二得レ詩人一。

問三　欲三服レ勤致レ力、以報二厚徳一。

問四　以テ二寛簡不ルヲレ擾サ為スレ意ト。

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「書き下し文」のルールは、①返り点に従って読む。②置き字は書かない。③漢字は漢字のままだが、助詞・助動詞として読む漢字は平仮名にする。④漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。⑤再読文字は最初の読みは漢字で、二度目の読みは平仮名で書く。という五つのルールがある。それらに加え、基本として平仮名は歴史的仮名遣いで書く。

② ①で挙げたルールに従って書き下し文にする。「与」・「乎」は助詞、「不」は助動詞として使用されているので、ここでは平仮名に直して書き、「而」は置き字なので書かない、という点に注意する。また、「交ハリテ」の部分は歴史的仮名遣いのまま平仮名で書く点にも気をつける。

③ 基本的には上から下に返り点のついていないものから読み下していき、その都度返り点の指示に従う。二字以上返る「一・二点」、一・二点をはさんで返る「上・中・下点」、更に上・中・下点をはさんで返る「甲・乙点」の順番に気をつける。また、「-」でつながったものは熟語なので、続けて読む。

④ まず最初に「③①②」となっているので、②から③へ一・二点で返る。次に、③のすぐ上に④があるので、③から④にレ点で返る。⑤～⑦へは、一・二点を使用した①～④までの部分をはさんで返るので⑤から⑥へ上・下点を使用し、レ点で⑦に返る。

⑤　まず最初の「君子」を読んだ後、「言に訥にして」となるように一・二点をつける。「於」は置き字なので書き下し文にする際には書かないが、返り点をつける際には一字と考えるので注意する。「而」も置き字で読まないので、そのまま次の「行に敏ならんことを欲す」となるように返り点をつけるが、「訥於言」で一・二点を使用したので、最後に「欲」に返るように上・中・下点を使用する。

〔解答〕

①　オ　②　イ　③　イ　④　エ　⑤　ウ